

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 19 日現在

機関番号：37114

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23520353

研究課題名(和文) 中英語夢幻視物語とダンテ『神曲』の異界描写および写本図像を対象とする比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study of Medieval English Dream Visions and The Divine Comedy by Dante in Terms of the Depictions of the Other World and Miniatures in Manuscripts

研究代表者

壬生 正博(MIBU, Masahiro)

福岡歯科大学・歯学部・教授

研究者番号：30249784

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中世イギリスの夢幻視物語とダンテの「神曲」および写本図像とを比較する研究である。夢幻視物語の代表的三作品の比較検討を行った成果として、The Vision of Tundaleがダンテの「神曲」との類似性が最も強いことがわかった。この点から、Tundaleの12世紀のラテン語版と15世紀の中英語版についても比較研究を行い、三位一体が天界の中核であり、両者に微妙な記述上の相違があることがわかった。この経緯から、三位一体を中心にTundaleと「神曲」を比較検討することによって、夢幻視物語の異界描写に対する意識の一端を解明できた。成果は、下記「4. 研究成果」に記したとおりである。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to compare dream visions of Medieval England with the Divine Comedy by Dante and the miniatures in its manuscripts. As a result of the comparison with three well-known works from the dream visions, it became clear that The Vision of Tundale had the most similarities of the three to the Divine Comedy in the structure of the other world. From this standpoint, I also made a comparative research between Tundale's Latin version in the 12th century and the Middle English version in the 15th century. Consequently the inquiry figured out that the core of the heavenly paradise was consisted of the Holy Trinity and that there were subtle differences between the Latin and Middle English versions. Moreover, in the light of the depictions of the trinity of Tundale and the Divine Comedy, I clarified a part of the consciousness towards the other world of medieval dream visions. The findings of the study can be found in "4. Research Results" below.

研究分野：人文学

キーワード：中世イギリス文学 異界 幻視 夢 タンダール ダンテ 黙示文学

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ

本研究の中心テーマである異界研究は、国内では未開拓の分野である。しかし、海外では多くの研究家たちが異界研究に取り組んでおり、国際的な成果を上げている。本研究で取り上げた夢幻視物語は、夢や幻視を媒体として主人公が煉獄、地獄、そして地上と天上のパラダイスを探訪する物語で、6世紀頃に文学ジャンルとして確立する。そして、12世紀から13世紀にかけて最盛期を迎え、代表作には St. Patrick's Purgatory, The Vision of Tundale, The Vision of a Monk of Eynsham, The Vision of Thurkill 等がある。諸研究家は、これらの作品の煉獄描写について論じる傾向があるが、本研究では主にパラダイス描写に焦点をあてた。理由は、パラダイスが人間の生命観と深い関わりを持つからである。

(2)本研究の着想に至った経緯

平成20年度から22年度にかけて交付を受けた科学研究費では、夢幻視物語の諸作品のパラダイス描写について、その描写の重要な起源となった黙示文書(紀元前200年～紀元200年頃)との記述上の比較研究を行った。この研究を進める過程で、夢幻視物語の12世紀～13世紀のラテン語原典と、15世紀頃の中英語翻訳テキストでは、パラダイスの記述内容が必ずしも一致しない点が明らかとなった。この観点に立ち、夢幻視物語の原典(12～13世紀頃)と中英語翻訳(15世紀頃)の中間期に創作された「神曲」(14世紀初頭)に着目すべきだと考えるに至った。何故なら、「神曲」は夢幻視物語の集大成であり、中世における異界描写の宝庫だからである。また、本研究は、写本の図像も考察に加えることによって複合的な視点から比較を行った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、異界に対する中世西欧社会の深層意識を究明することである。広範な異界研究の中から、本研究では、夢幻視物語が記すパラダイス描写に焦点をあてる。具体的な文献として、古代黙示文書、夢幻視物語のラテン語原典および中英語翻訳テキスト、そして、ダンテによる「神曲」等を取り上げ、パラダイス構成要素を中心に比較研究を行った。研究の最大の目的は、中英語翻訳テキ

ストの史的創作背景を究明することにある。

3. 研究の方法

本研究の主な方法は、黙示文書、夢幻視物語、「神曲」のテキストを精読することである。初年度は、研究システムの構築を行い、海外の図書館において中世写本テキスト調査、並びに図像の掲載状況を調査して情報を整理した。初年度以降の研究期間中には、上記の文書相互間のパラダイス描写の比較研究を中心に、写本図像のデジタルデータ収集・解析ならびに文献記述との比較、国内外の図書館や博物館等での資料収集、学会発表、論文作成等を行った。

4. 研究成果

(1) 英国での写本調査等

初年度である平成23年にロンドンを拠点として、本研究課題のテーマである中世夢幻視物語とダンテ「神曲」の写本および図像を中心に調査を行った。概要は、以下のとおりである。

大英図書館(ロンドン)

- Yates Thompson 36,
- Egerton 943
- Harley 3513、他

ボドレイアン図書館(オックスフォード)

- Hokham misc.48、他

そして、ナショナルギャラリー(ロンドン)のセインズベリー・ウイングでは、異界的な構図をもつ中世の視覚芸術を調査した。また、大英図書館やボドレイアン図書館では、既に絶版になっている重要図書を検索し、研究推進のための貴重な資料を収集できた。

(2) 黙示文書のパラダイス描写について

古代の黙示文書には天界の描写が豊富であり、旧約聖書の正典、偽典、外典の黙示文書から約37文書(Isaiah, Ezekiel, Daniel, 1 Enoch, 2 Enoch, The Testaments of the XII Patriarchs, The Sibylline Oracles, The Assumption of Moses 等)、新約聖書の黙示文書から約12文書(Revelation, The Ascension of Isaiah, Apocalypse of Peter, Apocalypse of Paul 等)を読み進め、夢幻視物語の天のパラダイス描写に関して最も関連が強いと思われるのは、旧約聖書の黙示文

書についてはイザヤ書、エゼキエル書、ダニエル書、第1、第2エノク書、エズラ書等であり、新約聖書の黙示文書についてはヨハネ黙示録、ペテロとパウロの文書等であることがわかった。しかしながら、パラダイス描写については、その構成要素や天界の階層等において文書間に差異がある。従って、夢幻視物語のパラダイス描写の素材となったのは、黙示文書の特定の記述が基になったとみなすよりも黙示文書の諸種の記述が複雑に絡み合って夢幻視物語の創作に繋がったとみるべきであろう。

(3) 聖書群にみる天の形態上の特徴と意義

聖書正典、偽典等の聖書群における天の形態上の特徴や天の意義等について考察した。取り上げた文書は、旧約正典からは創世記、イザヤ書、エゼキエル書、ダニエル書、旧約偽典から第1、第2エノク書、新約聖書からコリント人への第二の手紙、ヨハネ黙示録等である。これらの諸文書から言えることは、天には神の「神殿」があり、神は天の存在(天使)に囲まれて「玉座」に座し、すべてを統治しているということである。古代の人々が天を仰ぎ、そこに何か人智を越えるものが存在すると考えたとしても、不可思議なことではあるまい。天界の持つ聖書的な意義について最も注目すべきは、イスラエルの民が天を「救済」と結びつけたことである。旧約聖書と新約聖書を通じて、天は単に頭上の空間ではなく、神がいつか人間(イスラエルの民)を顧みて救済の道を照らすという宗教上の意味を担っていたのである。

(4) ダンテ「神曲」のパラダイス描写および写本図像について

ダンテの「神曲」は、地獄篇、煉獄篇、天界篇と三部構成であるが、作品ならびに作品解説や参考文献を参照することによって、全篇をつうじて三位一体が強く意識されていることがわかった。三位一体について特に異界要素の描写として興味深いのは、悪魔と神の描写の対比である。悪魔ルシファーは三つの顔をもち、神は父、子、精霊の三位各をもつ。本研究では、「神曲」の写本図像も研究対象として、記述との比較研究も行った。図像については、大英図書館所蔵写本 Egerton 943 (14世紀前半頃)、オックスフォード大学ボドレイアン図書館所蔵写本 Holkham misc. 48 (14世紀中期頃)、大英

図書館の Yates Thompson 36 (14世紀中期頃)の数点を取り上げ、図像間の比較、図像と作品記述との比較を行った。一例を挙げれば、Yates Thompson 36 (フォリオ 184)の至高天の図像について以下の考察を試みた。ダンテは第十天(至高天)に辿り着くと、そこに白い薔薇の芯(天の都)を見る(Paradiso XXX, ll.124-148)。この天の都は視覚的には円形ではなく八角形に見える。この八角形は天と地の融合形を意味する。八角形ではない可能性もあるが、ここではこの都を八角形と仮定すると、八角形を作成するには、天の象徴である円の面積と地を象徴する正方形の面積を同一にし、両者を重ね合わせて交わった点を直線で結べば八角形ができる。換言すれば、天の都は地上のパラダイスと天上のパラダイスとの合一体であるとも考えられる。Yates Thompson 36 (フォリオ 180)が天と地の融合形ではないかと推察するのは、天のパラダイスを構成する諸要素は地上のパラダイス、即ち、エデンの園が原形になっているからである。例えば、天の都は白薔薇の芯の部分に相当するが、そこには光に包まれた河(Paradiso, XXX, ll.61-69)が記されている。この河は、エデンから流れ出る河を想起させる。言い換えれば、天のパラダイスはエデンの園のイメージが払拭されないまま天の描写との関連性を強めたと考えられる。その他、Yates Thompson 36 (フォリオ 184)の図像で気づくのは、天の都にいる人たちは、記述では「白い衣類をまとった」(Paradiso XXX, l.129)と記されているが、図像では、衣類は身にまといおらず裸体であるという点である。これは魂の姿を描いたと見るべきであろうか。このように、それぞれの図像には、原作の記述とは異なり、画家の意匠も反映されていることがわかった。

(5) 夢幻視物語のパラダイス描写について

夢幻視物語における筋の展開は、時代を通じて類似性を持っている。まず主人公は夢幻視を媒体として、地下の陰惨な暗い世界へ迷い込む。そこでは罪人たちが悪魔たちの拷問にあい、地下の最下層には魔王ルシファーが棲む。異界に行った主人公は、天使あるいは聖人に守護されつつ移動して教示や啓示を受ける。そして、暗黒の世界を過ぎると、光溢れるパラダイスが眼前に広がる。パラダイスは地上と天上に区別されることもあるが、両者の境目は曖昧な場合もある。主人公

はこの地で神の栄光に触れ、その後、元の世界へ戻ると目を覚まし、神に忠実な生活を送り昇天する。

本研究では、夢幻視物語の代表作 St. Patrick's Purgatory、The Revelation of the Monk of Eynsham、The Vision of Tundale 等の校訂本を使用してパラダイス描写の比較検討を行った。夢幻視物語の異界はいくつかの階層に分かれているが、パラダイスについて言えば、は二層、は三層、については七層から成り立っており、各作品に共通する要素や異なる要素が使用され、作品ごとに独特なパラダイス像が描かれている。つまり、作家がパラダイスに対してどのような意識を抱いているかを知る手がかりとなる。この成果を踏まえて、平成 24 年度に日本中世英語英文学会西支部第 28 回例会で口頭発表を行った。発表の趣旨は、上記の作品におけるパラダイス描写の視点がどこにあるのかについて、つまり、地上のパラダイスなのか、天のパラダイスなのか、神（キリスト）なのか、それとも人間の生命なのか、あるいはどのような異界要素を重視しているのか等について発表した。

更に研究を進め、特にパラダイス描写の中核となる三位一体について考察を行ったところ、上記の が最も明確に意識されていることが明らかとなった。この研究成果を受けて、平成 26 年度から The Vision of Tundale の写本間の比較検討を集中的に進めた。12 世紀のラテン語版として MS Bodley 536 (オックスフォードボドレイアン図書館所蔵) 15 世紀の中英語版には Cotton Caligula A ii (大英図書館所蔵) 及び Advocates' Library 19.3.1 (スコットランド国立図書館所蔵) 等の校訂本を使用して比較検討を行った。本研究では中英語版 Cotton Caligula A ii を中心においてパラダイス描写の記述を分類・整理した。研究の結果、やはり写本間で記述上の微妙な相違があることがわかった。三位一体の記述の相違について特に興味深いのは、中英語版には、物語のクライマックスである天の頂上(至高天)で鎮座する神は三位一体として描かれているが、一方、ラテン語版の方は至高天の描写において神への言及はあるものの、神は三位一体として描かれていないことである。

(6) 夢幻視物語における hell について

本研究の遂行に伴い、パラダイスに対峙す

る悪魔の魔王ルシファーが棲む地獄についてもその概念を考察すべき必要性が生じ、主に hell という語彙について探求を行った。夢幻視物語の中英語版に使用される語 hell は、獣、罪人、悪魔、あるいは魔王ルシファーなどがいる暗く陰惨な地下領域という概念をもっている。このような概念は、聖書が記す地下世界、即ち、シェオル、ハデス、あるいはゲヘナ等を想起させる。これらの地誌的特徴と hell との関連性について考察を行った。考察の結果、夢幻視物語に描かれた hell は、最後の審判前の場所であるシェオルやハデス、あるいは審判後のゲヘナが渾然一体となった特異な世界であることが明らかとなった。この地誌的な曖昧性は、hell という語彙がシェオル、ハデス、ゲヘナの諸要素を多義的に含んでいることに起因すると考えられる。

(7) The Vision of Tundale の大宇宙と小宇宙について

夢幻視物語が描く異界は、地獄、煉獄、天界という大宇宙を舞台としているが、The Vision of Tundale の記述を考察すると、天動説を基軸とする大宇宙 (macrocosm) からの視点からだけではなく、人間という小宇宙 (microcosm) からの見方もできる。この点を、平成 27 年度に日本中世英語英文学会西支部第 31 回例会で口頭発表した。発表では、作品の考察に先立ち、まず聖書正典、偽典等の文書の数点をもとに天界の形態上のイメージと更に天に対する聖書の意義について言及した。その主な特徴は、天には神殿と玉座があり、イスラエルの民が天を救済と結びつけたことである。以上を前置きとして、本作品の至高天について、大宇宙と小宇宙の観点から作品解釈の可能性を探った。至高天を大宇宙の最上層として見た場合、主人公 Tundale は地球を離れ、宇宙の彼方まで動的な旅をしたことになるが、小宇宙の観点からすれば、彼の旅は彼の靈魂の知的成長を描いたアレゴリー (寓意) であり、あるいは人間に内在する神を観想する宗教的意味をもつ旅だったのではないだろうか。そして、The Vision of Tundale に描かれた至高天は、聖書思想の流れを受けて、やはり救済をテーマにしていると思われる点を指摘した。

(8) The Vision of Tundale とダンテ「神曲」について (三位一体を中心に)

The Vision of Tundale について三位一体の「三」という数字を念頭に置いて作品を読み返してみると、それまで気がつかなかったことが見えてきた。本作品におけるパラダイスは、三つの壁 - 銀の壁、金の壁、宝石の壁 - で区切られている。Cotton Caligula A ii では、それぞれの壁の内部で三位一体が言及されており、やはり三位一体の観念が作品の根底にあることが理解できる。Tundale は宝石の壁の頂上までよじ登ると、壁の向こう側に三位一体の神の姿を見た。玉座に座る神は太陽よりも輝き、その光は天使とそこに集う魂たちの命の糧であった。「神曲」の場合は、ダンテは天上の白薔薇の中心に三位一体の神を仰ぎ見た。三位一体は三つの異なる色の円が重なっているように見え、その中にイエス・キリストの姿が浮かび上がった。The Vision of Tundale の三位一体の様子と「神曲」の場合を比較してみると、前者の三位一体の神は万物の「生命の根源」として描かれており、旧約聖書的な創造神としての神のイメージが強いようである。一方、「神曲」では新約聖書的な「愛」の観念が強く打ち出されていると推察される。

最後に研究全体をまとめると、諸種の黙示文書の記述内容は後世に継承され、夢幻視物語が発展する礎となったと思われる。黙示文書の中で特に注目すべきは、エノク書、エズラ書、ヨハネ黙示録、ペテロやパウロの黙示録等である。しかし、本研究で取り上げたパラダイス描写については、単一の文書が後世に影響を及ぼしたというよりも様々な要素が共鳴し合いながら後の世代の作品が創作されたと見なすべきであろう。

また、中世の夢幻視物語とダンテ「神曲」との関連性や類似性から見ると、特に The Vision of Tundale に絞って述べれば、15 世紀の中英語版 Cotton Caligula A ii の作者が、ラテン語の原典を翻訳する際に「神曲」に接したのか筆者にはわからない。しかしながら、夢幻視物語の傑作である「神曲」に見られる種々の異界描写や三位一体の強烈な印象は、The Vision of Tundale を含めて後の時代の作品に直接的あるいは間接的に何らかの影響を与えたであろうと推察される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

壬生正博、夢幻視物語におけるパラダイス

描写の視点について、総合文化学会論叢、査読有、第2号、2015、1-22

壬生正博、夢幻視物語に見る 'hell' の多義性と曖昧性、The Kyushu Review、査読有、2014、61-71

壬生正博、中世西欧の夢幻視物語に見る人間の肉体と靈魂の中世的・聖書的な基本概念についての一考察、地域健康文化学会論集、査読有、第5号、2011、1-11

〔学会発表〕(計6件)

壬生正博、The Vision of Tundale における至高天についての一考察、日本中世英語英文学会第31回西支部例会、2015.6.13、福岡女子大学

壬生正博、地下世界の諸相——中世西欧の夢幻視物語と聖書との関連性について、地域健康文化学会第22回大会、2013.11.10、福岡市男女共同参画推進センターアミカス

壬生正博、ダンテ『神曲』のパラダイスに関する写本図像と記述内容との比較の試み、比較思想学会福岡支部第91回大会、2012.8.26、福岡市男女共同参画推進センターアミカス

壬生正博、題名：夢幻視物語におけるパラダイス描写の視点について、日本中世英語英文学会第28回西支部例会、2012.6.9、同志社大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

壬生 正博 (MIBU Masahiro)

福岡歯科大学・歯学部・教授

研究者番号：30249784